

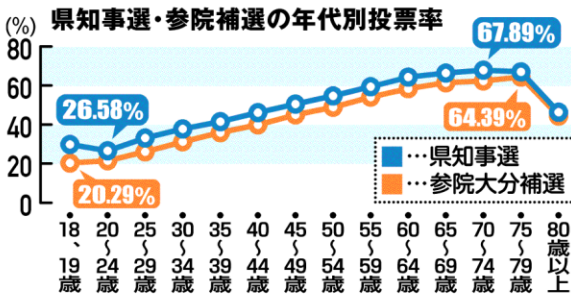


県選挙管理委員会が知事選（4月9日投開票）と参院大分選挙区補選（同23日投開票）の年代別投票状況を公表した。若い年代ほど投票率が低い傾向が顕著だ

知事選 20～24歳 26.58%

参院補選 18～19歳 20.29%

低投票率、若年層で顕著



18市町村から投票率が標準的な投票所を抽出してまとめた。知事選は市で3力、参院補選（同）は18～19歳の20・29%が最も低かった。最も高かったのは75～79歳の64・39%。20～60代の女性、70歳以上の男性が比較的選挙に行っていた。

知事選の年代別投票率（原則5歳刻み）で最も低かったのは20～24歳の26・58%。高校3年生を含む18歳は33・96%だった。全体では70～74歳の67・89%が最も高かった。

〔問①〕 若年層の投票率が低い理由を考えよう。

自由記述

〔問②〕 ①の理由を解決する方法を考えよう。

自由記述

〔問③〕 選挙制度も含め、有権者が多く投票に参加するためにはどうあるべきか、話し合おう。

所、町村で1力所ずつ。参院補選は18市町村で各1カ所。知事選の投票率は2019年選挙を4・04ポイント上回る51・45%。参院補選は同選挙区で過去最低の42・48

%だった。県選管は知事選前に交流サイト（SNS）で啓発動画を公開するなど若年層への投票呼びかけに力を入れていた。選管は「投票率

アップには普段からの啓発活動が大切。引き続き、学校への出前授業など地道な活動を続ける」と話している。

（山口真由）